

報道関係者 各位

## パンチ工業の 3D 測定技術を活用した月面探査車 YAOKI が、月着陸船との最終統合に成功 2025年2月打ち上げへ向けてカウントダウン開始

パンチ工業株式会社（以下、当社）が参画する、株式会社ダイモン（以下、ダイモン）の月面探査計画「Project YAOKI 1 (PY-1)」は、米国テキサス州に拠点を置く Intuitive Machines 社の施設にて、月面探査車「YAOKI」の最終統合に成功しました。

本ミッションは、民間企業として世界初の月面探査実現を目指しており、打ち上げは早くとも 2025 年 2 月下旬を予定しています。YAOKI は、Intuitive Machines 社の着陸船「Nova-C」に搭載され、SpaceX 社のロケット「Falcon 9」によって、フロリダ州ケープカナベラルにある NASA のケネディ宇宙センターから月に向けて打ち上げられます。月の南極付近を着陸地の目標としています。



ダイモンと Intuitive Machines 社による、月面探査車 YAOKI と月着陸船 Nova-C への最終統合

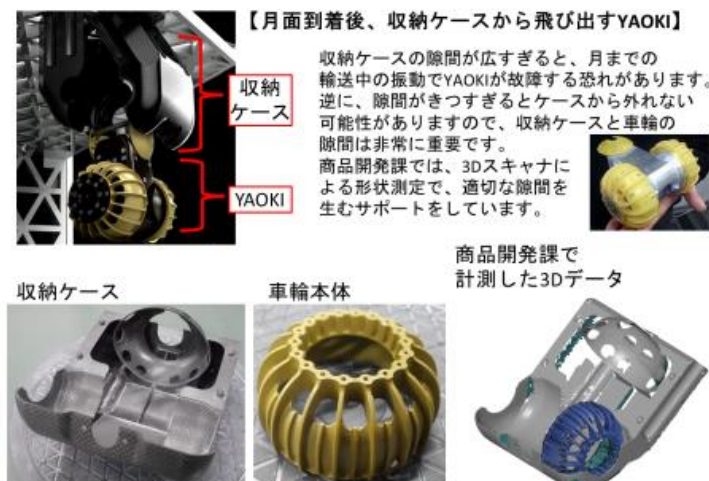
YAOKI の設計開発に際し、当社では、3D スキャナによる 3D 形状測定技術を活用し、YAOKI 本体のフライトモデルおよびデプロイヤー（YAOKI 輸送用のケース）の最適な隙間（クリアランス）設定に貢献しました。

当社は、月面探査車への 3D 測定サービスの提供を契機に、金型部品、F A 部品・機器の製造で培った技術力を活かし、金属部品加工や金属一体化技術「P-B a s」による新素材開発で、ダイモンとともに Project YAOKI を成功に導くお手伝いをするほか、航空宇宙産業の貢献を目指しています。

### パンチ工業の 3D 測定技術

当社では、商品開発課にて、図面がない部品などの現物を 3D スキャナで 3D データ化して復元する「リバースエンジニアリング」事業に取り組んでいます。この 3D スキャナの測定技術を活用したサービス「3D 計測パートナーズ」で、打ち上げに際して YAOKI が求められる品質保証要件を満たし、打ち上げの土台作りにも貢献してきました。

また、YAOKI は、月着陸船で月まで収納ケース（デプロイヤー）ごと運ばれ、月着陸後にケースから飛び出して月面探査を行います。YAOKI が輸送時の振動に耐えられるよう、収納ケースと YAOKI 本体の隙間（クリアランス）はスポンジ状の弾性体で適切に詰める必要があります。当社では、その数値をデータ化し検証することで、最適なケースの寸法や弾性体の厚さなどを導き出すためのサポートを行いました。



## 「Project YAOKI 1」 (PY-1) について

「PY-1」はダイモンが開発する月面探査車「YAOKI」の初めての月面ミッションです。世界最小・最軽量クラスの月面探査車である YAOKI は、高い耐久性と機動性を兼ね備えています。本ミッションでは、地球からのリモート操縦による月面走行および画像データ取得の技術実証を目指しています。YAOKI は、月に着陸後、月面の詳細な接写画像を撮影し、それらを地球に送信します。このデータは、月面環境の理解を深めるだけでなく、将来の月探査ミッションの重要な基盤となる事を目指しています。

月着陸船を開発する Intuitive Machines 社は、アメリカの民間宇宙企業です。2024 年 2 月 15 日、同社の月着陸ミッション「IM-1」の月着陸船「Nova-C」は、SpaceX 社のロケット「Falcon 9」によって打ち上げられ、民間企業として初めて月着陸に成功しました。今回、YAOKI が搭載される月着陸船「Nova-C」、それを打ち上げるロケット「Falcon 9」は昨年 2 月に月着陸の成功が実証されていることになり、2025 年 2 月の打ち上げを予定している YAOKI 搭載回の成功にも期待が持てます。

なお、当社は、2023 年 5 月 8 日にダイモンと技術パートナー契約を締結し、「Project YAOKI」の一員としてプロジェクトに参画しています。

Project YAOKI パートナー企業として、当社に加え、株式会社 UCHIDA、株式会社緑舞、株式会社桂川精螺製作所、国光施設工業株式会社、株式会社中央エンジニアリング、東京海上日動火災保険株式会社、株式会社ピクシーズ、4th.ai (スマートインプリメント株式会社)、三菱ケミカル株式会社、株式会社ユニスト・ホールディングスが参画しています。



YAOKI 収納ケースの表面を覆うサーマルブランケットに印字されたパートナー企業のロゴマーク

## 【株式会社ダイモン】

2012 年に創業したロボット・宇宙技術開発ベンチャーです。月面探査車 YAOKI を中核として、月面探査事業、地上ロボット事業、教育エンタメ事業に取り組んでいます。

社名 : 株式会社ダイモン (Dymon Co., Ltd.)

代表 : 代表取締役/CEO/CTO 中島 紳一郎

所在地 : 東京都中央区新富 1-6-16 DCC ビル

資本金 : 8,000 万円

設立 : 2012 年 2 月

URL : <https://dymon.co.jp/>



## パンチ工業の航空宇宙産業への取組み

当社では、2016 年から R&D 強化を目的として「航空宇宙産業関連への進出」への取組みを重点経営課題の一つに掲げており、航空宇宙関連の部品加工を中心に実績を伸ばしています。また、過去には JAXA (国立研究開発法人 宇宙航空研究開発機構) と共同研究契約を締結し、ロケットエンジン部品などの複雑形状部品について共同研究を行うなど、行政や民間企業とも幅広く連携しています。

今後さらなる発展が見込まれる航空宇宙産業への取組みを通じて、得られた技術を地球上での既存事業や新規事業に活用することで、より社会から必要とされる企業となることを目指しています。

## ものづくりによる信頼、真摯な技術、自由な創造力で、 次世代の豊かな未来をカタチづくる

### 【パーパスに込めた想い】

パンチグループの使命は、ものづくりへのこだわりを持ち、真摯に取り組むことで培ってきた信頼と技術、柔軟な創造力で、世の中を豊かにすることです。

私たちの原点は、世界初のプラスチック金型用ハイスエジェクタピンの開発・量産化にあります。この困難な課題を成し遂げる支えとなったのは、お客様の成功を支えたい、お客様に喜んでもらいたいという熱い想いでした。

この情熱は、企業アイデンティティであるパンチスピリット「チャレンジ」「創意工夫」「自由闊達」として受け継がれています。この考えのもと、私たちは、より良い社会実現をものづくりで後押ししたいという想いを持ち、技術の革新や品質向上に挑戦しながら、世界中のお客様や協力工場とともに成長を続けてきました。また、業界に先駆けて環境に配慮したものづくりを行うなど、常に社会課題に目を向け、誠実に取り組んできました。

これからも、私たちは、ものづくりと「パンチ」の効いた創造力、そしてそれを実現する技術力・ソリューションで社会の夢を実現していきます。そして、創業の礎である金型部品が金型に組み込まれて製品を形作るように、まだ無い未来をカタチづくり、世界の可能性を広げていきます。

### ＜パンチグループの約束＞

私たちは、暮らしの当たり前を支えるとともに、新しい価値の創造で世界のニーズに応え続けることで、社会の持続可能な発展に貢献します。

また、環境負荷の最小化や社会貢献活動を通じ、次の世代により良い地球を引き継ぎます。

その実現のため、私たちは全てのステークホルダーに寄り添い、共に歩み、社会に価値を提供する誇りを持つ企業であり続けます。

- お客様へ：パンチグループのものづくりソリューションで、成長を支えます。常にお客様の期待を上回る価値を提供します。
- 社員へ：誇りをもって働くことができる環境を提供し、一人一人の成長と自己実現を支援します。
- 社会へ：自然環境・社会の変化に向き合い、次世代へより良い未来を繋ぎます。

### 【パンチ工業株式会社 会社概要】

社名：パンチ工業株式会社  
代表：代表取締役/社長執行役員 森久保 哲司  
所在地：東京都品川区南大井6丁目22番7号 大森ベルポートE館5階  
上場：東京証券取引所 スタンダード市場 (6165)  
創業：1975年  
売上高：38,344百万円(2024年3月期)  
従業員：3,575名(連結)  
URL：<https://www.punch.co.jp/>  
事業内容：金型部品、自動化装置及びその周辺部品、特注機械部品等の製造・販売



社名に込められた意味：

創業の製品であるプリント基板用穴あけパンチの「パンチ」と、活力にあふれた「パンチ」の効いた会社という意味が込められています。

会社ロゴマークに込められた意味：

ゲンコツマークは「商品である金型用パンチ/ピンと企業としての勢い」、斜線は「稲妻のごとく業界に新風を送らんとする」意気込みを表現しています。

### ＜お問合せ先＞

パンチ工業株式会社 経営戦略室 広報 IR 課  
電話番号：03-5753-3130  
メール：[info-corp@punch.co.jp](mailto:info-corp@punch.co.jp)